



上矢作小学校だより

【学校の教育目標】たくましく すこやかな 上矢作の子

大 船 山

第 18 号

令和 6 年 1 月 29 日

ホームページアドレス <http://www.ena-gif.ed.jp/kamiyahagi-e/>



危機意識・危機管理

校長 細江 幸次

「1.17」「3.11」、そして「1.1」。これらの数字が何を表しているかはお判りになる方も多いことと思います。「1.17」は阪神淡路大震災、「3.11」は東日本大震災が発生した月日です。「1.1(元日)」の夕方に発生した能登半島地震は、この地域でも緊急地震速報が出され、これまであまり体験したことがない長時間の揺れに多くの方々が恐怖感を抱かれたのではないのでしょうか。能登半島とその周辺では多くの方々が被害に遭われ、今も余震の恐怖に怯え、不自由な生活を強いられています。阪神淡路大震災以降、震度7を記録した地震は7回あるそうですが、それだけの経験をしていても一度(ひとたび)大地震が発生すると、被害は甚大なものになってしまいます。それだけ自然の力は強大で、その力の前では私たちの力はほとんど無に近いものだとつくづく感じてしまいます。

私が子どもの頃から発生が危惧されている南海トラフ地震(当時は東海大地震といわれていました)はそれ以上の揺れや被害の状況が予想されています。ある研究では日本人の2人に1人が被災するともいわれているので、東海地区、岐阜県で生活する私たちは過去の震災の経験をよい教訓にしていかなければいけません。この冬休みにはわが家では緊急時に備え石油ストーブを買ったり、備蓄品の確認・補充をしたりしましたが、時間の経過とともに危機意識が薄れていくことにも注意を払わなければいけないと改めて考えました。

学校では年間約10回程度の命を守る訓練を行っていますが、地震発生時だけに特化して行っているわけではありません。また、発生時の想定も限られています。この地域では、津波の被害を考えなくていい代わりに、土砂災害に関する危機意識は他所の地域よりも強くもつ必要があります。そうなった時に道路が寸断されて、今回の震災と同じように物資が届かない、復旧がなかなか進まないことも十分起こりうることです。さらに、実際に被災したときの安否確認の仕方については家族の中できちんと確認しておくことも重要となってきます。

これらの備えはほんの一部にすぎません。一番大切なことはいつか起こりうる災害に対して個々が「自分事」として考え、被災の程度をできる限り軽減し、自分自身の命を守り切るかに注力することだと考えます。

上矢作っ子の活躍

* 第46回西日本スピードスケート競技会 小学低学年男子500m 第1位
1000m 第3位

第48回岐阜県ジュニアスピードスケート競技会 小学低学年男子500m 第1位
1000m 第2位

以上 3年 鈴木拓馬

* 第35回岐阜県読書感想画コンクール 自由読書 優秀賞 2年 小木曾太一
佳作 6年 長谷川瑛音、熊谷更加

* 校内書き初め展 金賞 2年 片桐礼乃、3年 鈴木拓馬、4年 伊藤綾美 5年 荻山七緒
6年 片桐優太
銀賞 2年 小木曾太一、小笹叶翔、田中美咲
3年 荻山朔、小林愛奈、中根暖心、4年 安藤春馬、小木曾杏
5年 荒田雪羽、小林真菜美、中根詩
6年 大島夏衣、太田舞、小林幸永